

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1998. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 174

日本野鳥の会 埼玉県支部

バードウォッチングのためのフィールド図鑑(上)

小荷田行男(浦和市)

バードウォッチングに欠かせないのが、フィールドで鳥を識別するための図鑑です。私は1995年の10月号『図鑑を持ってフィールドに出よう!』以来、過去5回、“やさしい自然観察の入門”を意識して、フィールド用の図鑑と自然観察の初歩を紹介してきました。

引き続き、日本国内で見られる野鳥について、2回にわたって紹介します。今回は、主に入門者向けを中心にして、特色ある図鑑です。

1. 入門者向け

バードウォッチングの最初は、写真図鑑よりも絵で描いたフィールド図鑑をおすすめします。写真の場合、影などになって鳥の全体の姿が見にくいからです。入門者向けにやさしい順で紹介してゆきます。

バードウォッチングの一番最初のフィールド図鑑は次の本をおすすめします。スズメ、シジュウカラ、ホオジロ、ハクセキレイなどの身近な鳥47種について、大きく見やすい絵を中心に、「庭や公園」、「林や農耕地」、「川や池」の環境を目印として、夏、冬それぞれ見られる場所についての説明を加えた入門者向けの野鳥図鑑です。

光瀬龍、藪内正幸 1985 小鳥が好きになる本 一身近な野鳥図鑑— ネイチャアイルランド社 大宮

【編集部から】

埼玉県内でバードウォッチングを始める時に最もおすすめなのは、

日本野鳥の会埼玉県支部 1994 気ままにバードウォッチング 幹書房 浦和

当支部が10周年を記念して会員の力を合わせて作った写真図鑑です。

副題に「埼玉基本の鳥66種と探鳥地15選」とある通り、身近に見られる鳥を、特徴をわかりやすくとらえた写真と、埼玉でのバードウォッチング感覚にぴったりの解説文で紹介しています。

全国を対象にした図鑑では、初心者向けでも、埼玉にいない種も掲載されていて混乱のもとになりますが、この本ではそういうこともありません。

A4版112ページ、本体1,748円。



ゴイサギ 若鳥

200種の鳥が環境別に見やすく大きな絵で表された入門者向けのフィールド図鑑が次の本です。1ページ1種で絵、説明の他、観察者個人の初認場所と初認年月日時を記入する欄があり、観察者がとらえたその鳥の特色をチェックする欄もあり、知らない内に種毎の識別が身に付く様に工夫されています。

浜口哲一、佐野裕彦 1990 自然ガイドと野鳥チェック図鑑 文一総合出版 東京

「身近な鳥」、「森・林とその周辺の鳥」、「草地の鳥」、「溪流の鳥」、「高山の鳥」、「夜の鳥」と生息環境別に基本となる157種を絵で紹介したものが次の図鑑です。

安西英明、谷口高司 1998 野鳥観察ハンディ図鑑 新・山野の鳥 日本野鳥の会 東京

上記と同じ考え方で、水鳥を「水辺の鳥」、「泳いでいる鳥」、「歩いている鳥」と生息環境別に基本150種を絵で紹介しています。

安西英明、谷口高司 1998 野鳥観察ハンディ図鑑 新・水辺の鳥 日本野鳥の会 東京

このいずれの2冊も絵が小さいので鳥の特色を絵からくみ取るのがむずかしいのが欠点

ですが、それぞれの生息環境から生息している鳥をさがす工夫がされています。ベテランには、生息環境別で科別に並べられていないため、さがすのに時間がかかります。

2. 鳥全般

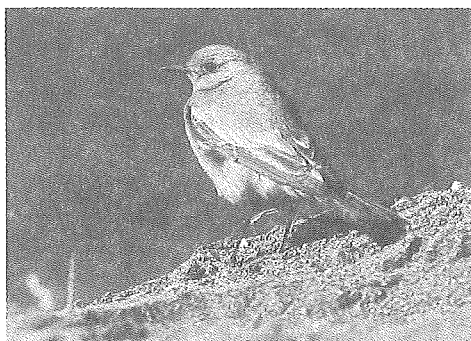
バードウォッチングのベテランになっても重宝するのが故高野伸二さんのていねいな絵で描かれた次のフィールド図鑑です。種別に識別ポイントが矢印で示されており、これ一冊あればビギナーからベテランに至るまでほとんど足りる日本のバードウォッチングのバイブルのような本です。

本書の初版が出版された翌年の1983年春、フィールドで故高野伸二さんにお会いする機会があり、そのときこのフィールドガイドにサインを頂きました。今はぼろぼろになってしまったフィールドガイドですが、私の宝物のひとつになっております。

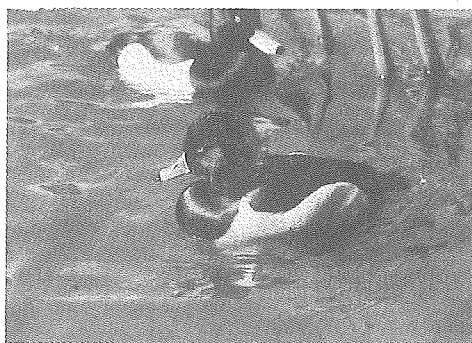
本書も欠点が皆無とは言いませんが、入門者向けを卒業してある程度、鳥の識別が出来るようになったら、このフィールドガイドに挑戦し、使いこなすようにして下さい。かく言う私も、このフィールドガイドを使いこなしているとは思っておりません。

高野伸二 1994 フィールドガイド 日本の野鳥 増補版 野鳥ブックス2 日本野鳥の会 東京

故高野伸二さんの高弟(?)に当たる叶内拓哉さんの写真を中心に作成した写真図鑑が次の本です。叶内さん独特の識別ポイント、鳥の成長の様々な段階の写真、亜種についての記述や写真もあり、いわゆる珍鳥の写真も多く含まれベテラン向けの図鑑です。



サバクヒタキ



クビワキンクロ

高野伸二さんのフィールドガイドを見てもピンとこないとき、本書のいろいろな角度や環境での写真をじっくり見て、フィールドガイドの記述をよく検討するような使い方が出来ます。

本書のおもしろさは、とにかく種の特徴を捉えた興味ある写真が数多く掲載されていることです。叶内さんの意図とは異なると思いますが、写真集としても楽しめる本です。

叶内拓哉、安部直哉、上田秀雄 1998 写真検索 日本の野鳥 山溪ハンディ図鑑7 山と溪谷社 東京

3. 羽根の識別

フィールドを歩いていると、運が良ければ鳥の羽根を拾う機会があります。しかし野鳥の普通のフィールド図鑑を見ても、その持主を決めることはやさしくはありません。私たちが見ている鳥の姿は、止まっている事が多く、一枚一枚の羽根を全て見ていないからです。このようなとき便利なのが、133種の実物大の羽根の絵がていねいに描かれている次の図鑑です。風切羽、尾羽、雨覆羽、体羽から成る鳥の羽根のやさしく書かれた解説とそれぞれ上述の部位別、実物大の大きさの羽の絵が並んで描かれており、著者のライフワークと言える図鑑です。

笹川昭雄 1996 色と形で判る実物大識別図鑑 野鳥の羽根 世界文化社 東京

今回はベテラン向けとして、「野鳥識別」、「地方鳥類誌」、「分類別野鳥フィールド図鑑」について述べる予定です。

(写真 外園たけの)

トッキョキョカキョク

榎本秀和（鴻巣市）

5月から7月にかけて、静まり返った我が家の夜空を、鳴きながら渡るホトトギスの声を聞くことがある。二声か三声か、ほんとうに一瞬の出来事なのだが、夜空からホトトギスの声が降って来た晩は、何だかとても得をした気分で寝入ることができる。

先日のこと、その夜も空からホトトギスの声が降って来た。今年初めてだったので、隣で寝息を立てている家内に思わず「ホトトギス、ホトトギス！」と声をかけた。

すると家内はむっくり立ち上がろうとする。腕をつかんで「どこへ行くんだ」と聞くと、「……電話出なくちゃ……」と寝ぼけた返事が返ってきた。

実は、昨年入れた我が家のFAX兼用電話は「トッキョキョカキョク」とホトトギスの声で鳴るのだ。翌朝、家中が大笑いとなったのは言うまでもない。

探鳥みやげ

榎本みち子（鴻巣市）

おとしし4月、我が愛する夫はかねてより憧れの地、香港の探鳥ツアーに参加した。

探鳥内容は良かったらしいが、おみやげはキーホルダーであった。それと、やっかいなおみやげがもうひとつ。それは虫さされ。

相手は香港の返還前の蚊である。しかも人馴れしていない野生(?)の蚊。日本のひかえめな蚊とは訳が違う。彼の腕は、さしずめ晴れわたった夜空の星のように蚊に刺された跡でいっぱいであった。中でも右手親指の付け根、ちょうど関節の上のはひどく、他の虫さされが治っても固くこっていた。「恐る可し香港の蚊」ということで、彼は妙に納得してしまっていたのだが…。

さて、時は移って1年後。とある離島に探鳥に行った彼のおみやげは乾燥ワカメであった。それとニュースがひとつ。三脚を担いだとき、例の治らない親指のしこりが三脚にちょうどよくあたる、と言う。要するに、親指のしこりは虫さされではなく、ただの三脚ダ

コだったことに気がついたと言うのだ。香港の蚊に謝りたまえ!

何はともあれ、いちばんのおみやげはやっぱり元気な笑顔。

オオタカがサギを急襲

石井 博（行田市）

9月1日(火)午後5時半頃、大雨で冠水した吹上町の荒川河川敷で、50羽以上のサギの群れを見ていたところ、群れが急にざわめき、一斉に飛び立った。

1羽のオオタカが逃げ遅れたアマサギに襲いかかり、その背中に爪をたてた。

アマサギは、オオタカを背負ったまま飛び立とうともがいたが、片方の翼をがっちり押さえられていたため飛び立つことができない。そのうちにアマサギは座り込んでしまった。

ここで、オオタカは、アマサギの首か頭を攻撃して息の根を止めるだろうと思ったが、意に反して、オオタカはまわりをキョロツと見回した途端、いきなりアマサギの羽根をむしり始めた。

アマサギは、羽根をむしられる度に首を伸ばしてしきりにオオタカをつつき抵抗を見せたが、オオタカはそんな事は意に介せず、羽根を次々にむしり取る。肉をついばみ始めた頃には、アマサギは首を上げなくなり、息絶えた様子だった。

この間約20分。テレビで見るアフリカの草原でのライオンの狩りのようで、弱肉強食の壮絶な場面に、身体が震えるような感じがした。オオタカは夢中で食べ続けていたが、やがて暗くなってよく見えなくなった。

この日は会社の帰りだったのでカメラを持っていなかったのがこの瞬間を記録できなかったが、翌日その場所を見に行くと、2羽のオオタカが前日の食べ残しを食べていた。

オオタカが飛び去った後に近付いて見ると、羽根の他には骨も頭も何ひとつ残さず、アマサギはきれいに食べ尽くされていた。オオタカだけではなく、カラス、イタチ、ネズミなどもご相伴になったと思われる。

■第4回NTTワールド・バード・カウント

10月1日(木)から10月31日(土)までの1ヵ月間に全世界で観察された野鳥を集計し、野鳥1種につき約1,000円が、NTTから世界規模の自然保護団体バードライフ・インターナショナルに寄付されるイベントです。

—昨年(第2回)では81の国と地域が参加、5,317種を観察して寄付金額5,317,000円、昨年の第3回では、88の国と地域から184,376人が参加、5,935種を観察して寄付金額5,935,000円にのびりました。

期間中の観察種名リスト・観察日・観察場所・観察者または観察グループ名・人数・住所・電話・FAX・電子メールアドレスを、次のところに報告してください。

インターネット

<http://www.wnn.or.jp/wnn-n/w-bird/>

電子メール wbc@wnn.or.jp

ファックス 0120-238666

電話 0120-004361

問合せ先 0120-017412 NTTワールド・バード・カウント事務局(受付時間:平日の午前9時~午後6時)

●9月1日から10月25日まで、ワールド・バード・カウント・フォトコンテストの作品募集もあります。詳しくはワールド・バード・カウント事務局にお問い合わせください。

■諫早干潟の記録映画上映会

イワプロが製作した16ミリ映画「沈黙の葬送 1988~1998諫早湾」を上映します。

イワプロは干拓工事前から干潟の自然や人々の生活などを撮影して、これまでに2作発表した記録映画の内、「干潟のある海」はイタリアの世界海洋ドキュメンタリー映画祭で金賞を受賞しています。今回上映する作品はこれまでの集大成と言える第3作目で、かつての豊かな自然と、堤防閉め切り後の無残な姿が、自然破壊の現実を克明に伝えます。

映画のナレーションを担当した作家・下重暁子さんのスピーチと、諫早湾の現状報告なども行われます。

日時:10月16日(金)午後7時開演

会場:目黒区民センターホール(JR目黒駅か

ら徒歩10分)

料金:予約・前売500円、当日700円

主催:諫早干潟緊急救済東京事務所

協力:日本野鳥の会、WWFジャパン、他

予約・問合せ:主催事務所

TEL 03-3986-6490

■第2回 甦れ!里山シンポジウム

里山の保全にはどのような行政の仕組みや調査研究の例があるかを、それぞれの専門家と各地の事例から学びます。

日時:11月7日(土)午前10時~午後5時

(交流会 7日午後6時~午後8時)

8日(日)午前9時30分~午後4時

場所:国立オリンピック記念青少年総合センター(渋谷区)

内容:11月7日(土)

第1部<講演>守山弘(農業環境技術研究所)「里山を守るとはどういうことか」、鶯谷いづみ(筑波大学)「里山の自然環境と保全生態学」

第2部<里山を守る最前線報告>荻野豊(都環境保全局)、粕谷和夫(天合峰野鳥調査グループ)、高松健比古(栃木県支部長)、伊井野雄二(赤目の里山を育てる会)、恵良好敏(流山自然観察の森を実現させる会)、飯島博(霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議)

11月8日(日)

第3部<講演>鬼頭秀一(東京農工大学)「里山を保全することの意味(仮)」

<分科会>第1「里山の社会環境と制度の現状と課題」、第2「里山の自然環境調査の現状と課題」、第3「里山保全の意義をより多くの人々に」、第4「里山と農」

第4部<分科会報告・総括論議>

主催:財団法人日本野鳥の会

後援:環境庁他

参加費:資料代1,000円(交流会費は別)

申し込み・問合せ:参加希望者全員の名前(フリガナ)・住所・電話番号・会員番号・交流会参加の有無を記入して、電話・はがき・FAXで、12ページ記載の日本野鳥の会会員センター企画室シンポジウム係宛てに申し込み。会員以外の参加も可。

ドカンとまとめて 白頭鷲の英名講座

松井昭吾 (大宮市)

第19回の続き

オトウゾクカモメ Great Skua
世界最初の発見者?

9月号で紹介したオトウゾクカモメ (Great Skua) については、実は興味深い逸話がある。

いまでこそ「探鳥」または「バードウォッチング」は庶民レベルのリクリエーションの一つだが、日本鳥学会が発足した明治45年(1912年)の頃にはまだまだ「宮様」「お殿さま」の篤志家の真剣な学術的なものだった。

「お殿さま」学者、松平頼孝(ヨリナリ)子爵は日本鳥学会の評議員として活躍していたが、鳥類標本室をつくり標本の収集に情熱を燃やしていた。大正6年(1917年)相模湾で採集活動中それまでのトウゾクカモメと明らかに異なる採餌行動をとるオトウゾクカモメと思われる鳥を7羽捕らえ、「新種発見」を確信した。

Catharacta matsudairae と「松平」の名を学名に冠して新種記載された。こうして学究の徒、松平頼孝子爵の名はオトウゾクカモメに残された。正に面目躍如たるものがあつた。ところがこの鳥はすでに外国で発見され *Catharacta skua* と記載されていることが後で判り、“*matsudairae*”のついた学名は使えなくなってしまったのは残念だ。松平頼孝子爵はその後の新発見でクロウミツバメに英名 *Matsudaira's Storm Petrel*、学名 *Oceanodroma matsudairae* と見事にその名を残して現に世界に通用している。

学名に自分の名を冠して命名した世界の鳥類学者のうち日本人は非常に少なく、松平頼孝子爵のクロウミツバメのほかにはイジマムシクイの飯島魁(イサオ)氏、ノグチゲラの野口氏くらいしか浮かんでこない。(野口氏については鳥類学者としての詳細不明)

イジマムシクイ *Phylloscopus ijimae*

ノグチゲラ *Sapheopipo noguchii*

バードウォッチャーまたはバーダーとして楽しむばかりでなく、Ornithologist(鳥類

学者)としてその名を鳥名に残すという夢は、21世紀を目前にした現在ではもう叶わぬ夢だろうか?

出典: 国松俊英著「鳥を描き続けた男」

鳥類画家小林重三 晶文社

第20回

ヒクイナ Ruddy Crakeまたは
Ruddy-breasted Crake

あの特徴ある「キョッ、キョッ」という声の主はその姿をなかなか見せてくれないが、英名は和名と同様その「色」をとらえて“Ruddy”即ち「赤みがかった」「血色の良い」クイナとしている。“Ruddy-breasted Crake”とは「胸の赤いクイナ」という意味になる。

ホンコンの図鑑の漢字表記では「紅胸田鶏」であり、和名の「緋水鶏」より色のトーンがやや薄く感じられる。このトリの実際の色はそれほど鮮烈な赤ではなく、英名の「赤みがかった」くらいの感じである。

“Ruddy Crake”とすると中南米やコストリカあたりのズグロコビトクイナとの混同があり得るのでヒクイナとしてはむしろ“Ruddy-breasted Crake”をお勧めする。

なおクイナ類には“Crake”と“Rail”の英名があるが、一般的には“Rail”を総称的に用い、“Crake”は「主にヨーロッパ系の嘴の短い」クイナを指すことが多い。現にアメリカのクイナ類はすべて“Rail”である。唯一の例外はヨーロッパから入っていった



ヒクイナ (海老原 美夫)

Corn Crake ウズラクイナだけである。

日本には下記のように“Rail”が3種、“Crake”が4種記録されている。

Water Rail	クイナ
Swinhoe's Yellow Rail	シマクイナ
Okinawa Rail	ヤンバルクイナ
Ruddy-breasted Crake	ヒクイナ
Baillon's Crake	ヒメクイナ
White-browed Rail	マミジロクイナ
Banded Crake	オオクイナ
その他に	
Water Cock	ツルクイナ
White-breasted Water Hen	シロハラクイナ

最近ヤンバルクイナの人工孵化が成功したというニュースは実に明るいニュースであった。

第21回

カラシラサギ Chinese Egret または Swinhoe's Egret

この珍客が「三番瀬に現る」の情報に三番瀬に駆けつけた人は多いだろう。昨年のは「本物」でなかったとのことで、今年こそは「本物」を見ようと駆けつけたバーダーこそ「本物バーダー」といえよう。

さて、その英名が学者により二分されているので二つとも紹介しよう。

和名と全く同じ「中国のシラサギ」、即ち“Chinese Egret”である。この鳥の主な分布に基づいた命名である。

他の一つは“Swinhoe's Egret”—鳥類学者スウィンホーの名を冠した「シラサギ」である。Swinhoe氏の発見、登録によるものであろう。

世界的に定評のあるアメリカの「クレメンツのチェックリスト」では“Chinese Egret”を採用している。日本野鳥の会のフィールド

ガイド（英語版）でも“Chinese Egret”を採用しているのでここでは“Chinese Egret”を優先し、他に“Swinhoe's Egret”も頭の片隅に入れておこう。ホンコンの図鑑では英名は“Swinhoe's Egret”を採り、漢字でずばり「黄嘴白鷺」としているのは面白い。

ついでながら「サギ」類に“Egret”と“Heron”があるが、大ざっぱではあるが全体的に白いものを“Egret”とし、青または灰色などの「色付き」のものを“Heron”としているようである。例えば、アオサギの“Gray Heron”、ムラサキサギの“Purple Heron”など分かり易い。

アオサギの「アオ」がどうして“Gray”か？という日本語の「アオ」の幅広いニュアンスと英語の具体性を重視する言葉の性格の差、とでもいおうか。確かにアオサギの色は「アオ」ではなく「グレイ」である。ここでは日本語の「アオ」を論じている訳ではないので単に“Gray Heron”と覚えておこう。間違っても“Blue Heron”と言わないように！



(桶川市 五十嵐 貴大)

表紙の写真

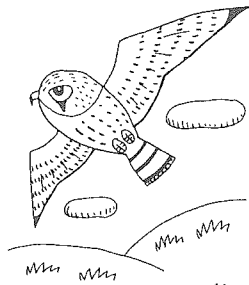
ベニスズメ (スズメ目カエデチヨウ科)

渡良瀬遊水地では、以前から、かご抜け鳥の野生化したキンバラ、ギンバラ、ベニスズメの3種が見られましたが、9月5日(土)にはアマハラ(シマキンバラ)も初めて見られて、この日は、合計4種類のかご抜け鳥が

見られました。

ベニスズメはもともとパキスタンからインドシナなどに分布していますが、今が営巣時期に当たるので、雄は真っ赤な婚姻色で非常にきれいでした。 石井 博 (行田市)

行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

浦和市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：10月4日（日）
集合：午前9時 浦和市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前
交通：JR浦和駅西口バス1番乗場、大崎園芸植物園行8:36発に乘車、念仏橋下車
後援：浦和市くらしの博物館民家園
担当：伊藤、手塚、工藤、新堂、笠原、吉岡、若林、倉林
見どころ：渡り途中の鳥達を求めて、秋風が吹き抜ける調整池周辺を巡ります。早くも越冬するカモ達が見つかるはず。差間地区が最も華やかになる時期、期待してください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月4日（日）
集合：午前8時30分 北本自然観察公園駐車場。または午前8時15分JR高崎線北本駅改札口、集合後タクシーで現地へ。リーダーの指示で分乘してください。
担当：内藤、榎本、立岩、永野（安）、永野（京）、川那部、島田、大坂、高（文）、山田
見どころ：石戸宿はいま秋祭り。渋い声でカラオケに熱中しているのはカケスさん。幹を叩いてリズムを取るのはキツツキ。空ではサシバ、オオタカの飛行ショー。コサメビタキは枝に並んで応援。地上ではツリフネソウが。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月11日（日）
集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乘車
担当：和田、森本、中島（章）、石井（博）、倉崎、松本、中里、高橋
見どころ：今まさに秋。行く鳥来る鳥の動きも活発になってきましたが春から夏の異常気象が鳥達の渡りに悪い影響を与えないことを祈りたい気持です。10月は猛禽類の多い月、ご期待ください。

浦和市・大久保農耕地探鳥会

期日：10月11日（日）
集合：午前8時 JR浦和駅西口バスロータリー、集合後バスで現地（やつしまニュータウン）へ。
担当：福井、楠見、小林、海老原、倉林
見どころ：すがすがしい秋空の下、冬鳥の先発隊は北の国から、山の森からもう到着したのだろうか。一方シギやチドリの仲間とは別れの月になります。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：10月18日（日）
集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、

笠原、倉林、若林、岡部、兼元、森
見どころ：昨年、オーストラリアからの参加者もいて、鳥も沢山出現して楽しい探鳥会でした。今年はどうだろうか。探鳥会は、鳥と人と多様な自然が作り上げるものなのでしょうから、みなで楽しいものにしましょう。見沼の自然が貴方を待っています。

長野県 戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：10月24日(土)～25日(日)
定員に達したので締切りました。

行田市 さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月25日(日)
集合：午前9時30分 県立さきたま資料館前レストハウス
交通：JR高崎線吹上駅北口より、東武バス行田車庫(佐間経由)行き8:55発に乘車、「産業道路」下車、徒歩約15分
担当：内藤、岡安、榎本、和田、立岩、石井(博)、松本、島田
見どころ：今年は雨の日が多かったので、古墳の池に水不足の心配はないだろう。渡って来たカモ達ものんびりと羽を休めているに違いない。間近に観察できます。秋の日の一時、ゆっくりと古墳巡りをしましょう。

川越市 西川越探鳥会

期日：10月25日(日)
集合：午前9時10分 JR川越線西川越駅前
交通：JR埼京線大宮8:36→川越乗換え8:55発にて西川越下車
担当：佐久間、長谷部、石井(幸)、小野、山本、中村(祐)、池永
見どころ：秋の長雨も終り、冬鳥のタゲリやカモ達、小鳥達の季節になりました。人気者のカワセミもすっかり定番になりました。秋の一日をゆっくり歩き、楽しみましょう。

『しらこぼ』袋つめの会

とき：10月31日(土)午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

上尾市 丸山公園探鳥会

期日：11月1日(日)
集合：午前7時30分 丸山公園北口駐車場
交通：JR高崎線上尾駅西口5番バス乗り場より、西上尾行(畔吉経由)7:07発にて「前原」下車、徒歩約10分
解散：午前11時ごろ
担当：浅見(健)、浅見(徹)、大坂、阿久沢、丹、永野(安)、永野(京)、高(文)

見どころ：早朝の冷たく澄んだ公園で冬の小鳥達を探してみませんか。早起きするとこんな身近かな所でも思わぬ出会いが楽しめますよ。

石川県 片野鴈池探鳥会(要予約)

期日：11月21日(土)～23日(月・祝)
集合：21日午前7時 JR大宮駅西口代々木ゼミ前
帰着：23日大宮駅西口に20時ごろの予定
交通：往復とも貸切バスを利用
費用：38,000円の予定(バス代、2泊宿泊費・食事代<詳細は参加者に通知>、懇親会費、保険料)万一過不足の場合は当日清算。
定員：20名(先着順・県支部会員優先)
申し込み：通常葉書に住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記して、中島康夫
ま

で。
担当：中島(康)、中村(栄)、高(文)
見どころ：初めての北陸方面(新潟県・朝日池経由)2泊3日の探鳥ツアーです。ガン・カモ類・海の鳥・山の鳥・ワシ・タカ類と盛り沢山。おまけで金沢兼六園にも立ち寄ります。
注意：往復約1200km余のバス旅です。バス酔いの方は十分にご注意ください。宿は男女別の相部屋です。

行事報告

5月31～6月1日(日～月) 両神村 両神山

参加: 17人 天気: 晴

キジバト アオバト ジュウイチ ツツドリ ホトトギス コノハズク ヨタカ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ ミソサザイ コマドリ コルリ ルリビタキ マミジロ クロツグミ アカハラ ヤブサメ ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ オオルリ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ ウソ イカル スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (45種) 3回目の探鳥会でようやく鳴いてくれたコノハズク。でも速くて、かすかに。深夜の清滝小屋はイビキの大コーラス。夜明けとともに、コーラスの主演はおじさん達から鳥達へ。コマドリ、ウグイス、クロツグミ等々、谷底から沸き上がってくる美声は、イビキに疲れた耳を癒してくれた。2日間とも晴天に恵まれ、山頂や“のぞき岩”からは大展望が楽しめた。山は初めて、という方も何人かいたが、皆さん元気一杯。全員笑顔で下山できたのが何よりの収穫だった。(小林みどり)

7月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 27人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ チョウゲンボウバン コアジサシ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) この季節には望めない位の涼しさの中、駅前電線に止まるツバメの親子に見送られてスタート。土手に上がり、囀るホオジロやカワウの大群を見ていたら、チョウゲンボウがさっそうと登場。明戸堰では、少し遠かったが、カワセミがしっかり見られ、カッコウも飛ん

でくれた。しかし、夏の目玉になるササゴイがちょっとも現われない。あきらめて探鳥会を終わったら、3分後に悠然と現われて堰のところでポーズを取った。(森本國夫)

7月19日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 36人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ カルガモ オオタカ コジュケイ キジバト ホトトギス コゲラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (21種) いつもなら梅雨明けで暑いのが、曇で涼しい。公園に入ってすぐに、オオタカの若が杉の木に止まっているのがゆっくり見られた。途中、百合、桔梗など、花を見ながら今回の目玉の蝶、オオムラサキも5～6頭見られた。(佐久間博文)

7月19日(日) 浦和市 三室地区

参加: 46人 天気: 曇一時雨

カワウ コサギ アオサギ カルガモ コジュケイ キジ コチドリ イソシギ キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 梅雨が明けず天候を心配したが、なんとかできた。カルガモの親子は、親と見分けがつかないほど子供たちが大きくなっていった。他の鳥たちも、若鳥が目立ち、識別を楽しんだ。カワセミのいた小さな水路がコンクリートの川になって心配していたが、カワセミが芝川を飛翔したのがうれしい。

(倉林宗太郎)

7月25日(土) 『しらこぼと』袋つめの会

ボランティア: 16人

赤坂忠一、荒木恒夫、石塚文雄、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、原島浩、藤掛保司、藤野富

代、増尾隆、松井昭吾、山野豊

7月26日(日) 狭山市 入間川

参加:14人 天気:曇

カイツブリ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ キジ イソシギ キジバト カッコウ アオバズク ヒメアマツバメ カワセミアオゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ エナガ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 激しい雨のため中止しようと思っていたら、続々と集まる参加者。開始時刻にはほとんど雨も止み、とりあえずスタート。増水した入間川には鳥が少なく、思い切ってコース変更。特別コースでアオバズクの親子に会いに行った。(長谷部謙二)

8月2日(日) 北本市 石戸宿

参加:33人 天気:曇

カイツブリ カワウ ワシタカSP チョウゲンボウ キジ バン キジバト ツバメ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (18種) ゴミ拾いで下ばかり向いていたため(?)、あまりトリには出会えなかった。思いの外たくさんゴミが落ちていたのには驚いた。自然を汚染しているのは外ならぬ人間だというのが実感。冷たい飲み物でのどを潤した後、「鳥の巣展覧会」「チョウゲンボウ」のビデオを観賞して疲れをいやし、解散。(岡安征也)

8月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加:36人 天気:曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ ツミ キジ バン イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 朝から涼しかったせいか参加者が多かった(去年は14人)。鳥の方は明戸堰への途中では非常に少なかったが、堰の周りでは結構出てくれた。残念ながらササゴイとのご対面はできなかったが、終了直前にカワセ

ミ君が現われ、最後を飾ってくれた。(和田康男)

8月16日(日) 浦和市 三室地区

参加:41人 天気:曇

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ コジュケイ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 一年中、毎月行っている探鳥会では、少しずつ変わっていく季節の風を感じることが楽しみであり、面白さである。この日はコースを変えて、久々に芝川を下流に歩いた。カワセミが3羽、芝川で交差していった。2、3年ぶりにチョウゲンボウが鳥と群れていた。町田市からの参加者が馬場東公園で、木の名前のテストをしていた。そんな具合でリーダーも楽しんだ探鳥会だった。また三室に、見沼たんばにお出かけください。(楠見邦博)

8月23日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加:67人 天気:晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ オナガガモ スズガモ オオタカ チョウゲンボウ バン コチドリ シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン キョウジョシギ トウネン オバシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ セイタカシギ ウミネコ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (45種) 毎月通っていて12年目で初めて見たオオタカ! 鳴かない季節なのにオオヨシキリも鳴いた。支部の皆さんを谷津干潟が歓迎してくれているようだった。終了後にコオバシギが出て、大半の人が見た。(杉本秀樹)

8月29日(土) 『しらこぼと』袋つめの会

ボランティア:21人

荒木恒夫、江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、大友慎也、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、佐久間博文、篠原東彦、柴田和見、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、原田譲、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、松村禎夫、百瀬修、山野豊

連絡帳

●本部事務局の移転先

業務開始 9月21日(月)
業務時間 午前9時30分～午後5時30分
定休日 土曜日・日曜日・祝祭日
住所 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階(京王新線初台駅から徒歩2分。甲州街道と山手通りの交差点近く。新宿駅の京王新線と京王線は改札が別の場所です。ご注意ください)
電話 会員センター企画室 03-5358-3510
会員センター業務室 03-5358-3511
編集室 03-5358-3512
総務部 03-5358-3513
企画部 03-5358-3514
ネイチャースクール 03-5358-3516
サンクチュアリセンター 03-5358-3517
保護・調査センター 03-5358-3518
企画事業センター 03-5358-3519
通信販売受付 03-5358-3515
バードショップ 03-5358-3584
ファックス 会員センターから保護・調査センターまでは 03-5358-3608
企画事業センターと通信販売受付は 03-5358-3609

バードショップのみ、営業開始は9月30日(水)、営業時間・正午から午後7時まで、日曜日と祝祭日が定休になります。

なお、鳥と緑の国際センターWINGの住所・電話番号などは次の通りで変更ありません。
住所 〒191-0041 東京都日野市南平2-35-2
電話 WING管理部 042-593-6871
国際センター 042-593-6871
研究センター 042-593-6872
ファックス 042-593-6873

●湿地保全を求める署名運動

諫早湾、三番瀬に続いて、伊勢湾の藤前干潟の埋め立て問題がマスコミなどでも取り上げられています。他にも吉野川河口干潟、北九州曾根干潟、和白干潟なども破壊の危機が進行しています。

日本湿地ネットワークでは、来年5月のラムサール条約コストリカ会議にむけて、日本

の湿地政策の転換を求める全国的な署名運動を展開することにしました。

支部探鳥会などでも署名用紙を配布しますが、足りない場合はコピーして使用し、集まった署名は本部の保護調査センターにお送りください。

●今月も「ごめんなさいコーナー」

8月号9ページ、小櫃川河口探鳥会の交通案内に誤りがありました。事前に気付いたリーダーの対処でトラブルはありませんでしたが、案内した時間の電車はなくなって、その次の電車では集合時間に間に合わないところでした。

前月号7ページ、「白頭鷺の英名講座・第19回」の文中4カ所「Jaeger」は「Jaeger」の、「South Poler」は「South Polar」の誤植でした。

●10月の事務局 土曜と日曜の予定

- 3日(土) 普及部会議。
17日(土) 編集会議、研究部会議。
18日(日) 役員会議。
24日(土) 校正作業。
31日(土) 袋づめの会。

●会員数は

9月1日現在3,081人です。

活動報告

- 8月16日(日) 役員会議(司会:倉林宗太郎、鳥獣保護区設定公聴会への出席・探鳥会予定の変更・その他)。
8月18日(火) 三種郵便発行人変更認可申請手続き(事務局)。
8月22日(土) 9月号校正(海老原美夫・喜多峻次・喜多彌生)。

編集後記

NHKラジオ第2放送「気象通報」にハマってます。何の感情も込めずに読み上げられる地名や数値に耳を傾けているとトゲトゲが溶けて、カッカしていた頭が冷えてきます。キレル前に一度お試してください。(みどり)

『しらこぼと』1998年10月号(第174号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事は上記ホームページに転載されることがあります。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用